

メッセージを残しながら。「か、完璧な作品だ! ……世界が……反転が……ガクッ」。

sense of wonder 100%、当遊星測候所推薦の一冊デス。



「……人間にとって宇宙（コスモス）とは外なる空間ではなく、内なる空間なのだ。20世紀物理学と宇宙論に於いてなされた発見はいずれも、実際に我々の精神の在りように直接関わっている。人類こそが時空間の支配に他ならないと言うことだ。」——日本語版の序文で、こう語られる『星の書物』は、現代ロシア発、もうひとつの認識臨界点からの"反転"の書である。フォードロフ、ロバチェフスキー、フレイブニコフからタルコフスキーまで。広大なロシアユートピアン精神圏（ヌースフィア）を涉りつつ"反転"認識で『新しき人間』（＝トランスフォーマー）を考察している。

が、この『星の書物』。最大の魅力は何と言っても、終章を飾る著者自身の美しい詩『星のコンピュータ』だ。これを紹介したくて、この本を選んだようなものだ。全編を後に紹介している。その東方的ビジョンと"反転"イメージの美しい結晶を見よ!

（著者ケドロフ、実はロシアの河村悟なのでアッタ!）

「世界とは、人間がそれを解読することを期待して神が与えた未完成のテキストである」（フォードロフ）。……だとするならば、すべての動機は世界秘密の解読に繋がっていることになる。感じたことのない感覚を感じて見たい。それがあると思えるのは、世界秘密の手掛かりが既に内在している事になる。誰でもキットそうだ。なんだか楽しくなるネ。（おしまい）

詩『星のコンピュータ』を読む

遊星測候所は、広義のヌース的お気楽カルチャーコラムです。すべてStrang.Nの浅学なヌース理解度にもとづいておりますので、力不足な点多いかと思いますが、楽しんで頂けたらと思います。ご意見・ご感想等頂けたら嬉しいです。どうぞよろしく。

synaps@noos.ne.jp